

第24回教育改革シンポジウム

学生の主体的な学びをはぐくむ 授業のあり方を考える

一反転授業を活用した アクティブ・ラーニング

2016

9/29

(木)

講演：「学生の深い理解を促すアクティブ・ラーニング
一反転授業導入の可能性を考える」

森 朋子 関西大学 教育推進部 教授

コメンテーター：平 知宏 大阪市立大学 大学教育研究センター 特任講師

日時：

9月29日(木)

13:30～15:20

場所：

大阪市立大学 杉本キャンパス

学術情報総合センター10F会議室

(大阪市住吉区杉本3-3-138)

本学の「教育改善・FD宣言」(2011年3月制定)では、教職員はもとより「自律的学習主体である学生」を含めた構成員全体で、本学の学生たちに「真に学ばせるための教育改善」を行うことによって、教育の一層の質向上をめざすことを謳っています。この方向性は、中教審のいわゆる「質的転換答申」(2012年)や本学が今年度から採択された大学教育再生加速プログラム(AP)などに見られる、学生の自律的主体的学習や学修成果の質を重視する、昨今の高等教育政策の流れとも相通する方向性でもあります。

学生の真の学びや主体的な学びを引き出す教育のあり方を考えていくにあたって、近年は、授業内外での能動的学習(アクティブ・ラーニング)の重要性やその効果が指摘されています。また、その1つの手法として、反転授業への注目も高まっています。反転授業とは、授業時間外の予習にICT教材なども活用した上で、その事前獲得した知識を、能動的な学習活動なども活用しつつ授業時間内に応用・発展させていく、新しい手法のことです。本学での各種FD行事におけるこれまでの議論や今後取り上げるべきテーマとしても、何度もアクティブ・ラーニングや反転授業のことが

挙がってきました。

そこで今回は、講師として、アクティブ・ラーニングや反転授業の研究における第一人者であり、AP事業の審査を行う委員もお務めになった、関西大学の森朋子先生をお招きして、お話を伺うことといたしました。昨今の高等教育の政策の方向性やAP事業におけるアクティブ・ラーニング等の位置づけについてもご説明いただきつつ、他大学の実践事例や状況などをご紹介いただき、学生の真の深い理解や主体的な学びをはぐくむ授業のあり方、とりわけ反転授業を活用したアクティブ・ラーニングの可能性などについてご講演をいただきます。当日は、参加者の皆さまと、学生の深い真の学びや主体的な学びを引き出す教育のあり方について、議論や模索を深めてみたいと思っております。ご多忙中かと存じますが、是非よろしくご参集いただければと存じます。

※当日参加も歓迎いたしますが、準備の都合上、9月26日(月)までに、大阪市立大学大学教育研究センター(center@rdhe.osaka-cu.jp)宛に、ご所属とお名前・ご連絡先をご連絡いただけると助かります。

主催：大阪市立大学 大学教育研究センター

E-mail : center@rdhe.osaka-cu.ac.jp

Fax : 06-6605-2137

共催：大阪市立大学 全学共通教育教務委員会

APプロジェクト推進委員会